

学生の確保の見通し等を記載した書類 別紙資料

資料 1	ニーズ調査（学生対象）パンフレット（令和 6 年度）・・・・・・・・	3
資料 2	ニーズ調査（学生対象）調査結果（令和 6 年度）・・・・・・・・	9
資料 3	ニーズ調査（学生対象）パンフレット（令和 7 年度）・・・・・・・・	23
資料 4	ニーズ調査（学生対象）調査結果（令和 7 年度）・・・・・・・・	27
資料 5	ニーズ調査（企業対象）調査結果（令和 4 年度）・・・・・・・・	33
資料 6	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績・・・	45
資料 7	要望書（群馬県）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47
資料 8	要望書（群馬銀行）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	49
資料 9	要望書（S U B A R U）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	51
資料 10	要望書（N T T）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	53
資料 11	要望書（LINE ヤフー）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	55

【2026年4月 開設予定】

※ 設置構想中

掲載内容は予定であり、
変更する場合があります。

群馬大学新大学院（博士課程）

情報学研究科

パブリックヘルス学環

医理工レギュラトリーサイエンス学環

群馬大学では 新たな大学院を設置し
社会課題を解決する実践力をもつ
人材の育成を強化します

1. デジタル分野を牽引する高度専門人材の育成を強化します
2. 予測不可能な時代の到来を見据え、分野横断的な高度専門知識・能力を持つ高度専門職業人の育成を強化します

群馬大学の大学院改革（全体像）

改組前

教育学研究科

社会情報学研究科

保健学研究科

医学系研究科

理工学府

改組後

教育学研究科

情報学研究科

保健学研究科

医学系研究科

理工学府

食健康科学研究科

パブリック
ヘルス学環医理工レギュ
ラトリーサイ
エンス学環

情報学プログラム

【学位】博士（情報学） Doctor of Philosophy in Informatics

育成する人材像 ～ このような人材を育成します ～

現在の情報技術に深く依存した高度情報社会に対して、その変動の方向性を深く洞察し、これからの社会のあり方を情報技術を支える数理科学の原理もしくは社会理念にまで遡って構想し、情報社会の抱える諸問題について情報科学的な視点もしくは人文社会科学的な視点から解決に貢献できる「先端研究者」および「指導的高度専門職業人」を育成する。

アドミSSION・ポリシー ～ このような人を求めています ～

■情報科学・データサイエンス・社会情報学分野について博士前期課程修了程度の理解と優れたコミュニケーション能力を持つ人

■情報科学・データサイエンス・社会情報学分野について強い探求心と主体的かつ持続的に自己研鑽する強い意欲を持っており、これらの分野において社会で指導的役割を担う気概を有する人

■情報科学・データサイエンス・社会情報学分野の動向に一定の見識があり、当該分野で取り組むべき新しい課題や科学技術の開拓の方向性を積極的に提案し、その発展に情熱的に取り組む意欲がある人、もしくは現代社会に氾濫する多種多様な情報を的確かつ選択的に把握し、それを主体的判断に基づいて加工し、新たな情報発信により情報社会に積極的に関わる意欲と情熱のある人

■柔軟な発想で情報科学・データサイエンス・社会情報学分野の課題を設定し、論理的な思考能力と的確な判断能力で課題解決に取り組める人

修了後の主な進路

大学・研究機関、情報通信業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、
電気・情報通信機械器具製造業、電子部品・デバイス・電子回路製造業、
自治体、官公庁、金融機関、運輸業、学術研究専門・技術サービス業、複合サービス業



- 学生確保(資料) - 4 -

※【設置構想中】掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

社会健康医学プログラム

【学位】博士（社会健康医学） Doctor of Philosophy in Public Health

育成する人材像 ～ このような人材を育成します ～

本博士課程では、パブリックヘルスの両輪である実践と研究のいずれの分野でも活躍できる卓越した能力を持ち、健康の格差を是正するための組織的な活動に寄与できる人材を育成する。また、生物統計学や疫学などの手法をはじめ、パブリックヘルスの専門家として必要となる知識・技能を修得するとともに、多様な価値観や倫理観が行き交う現場で課題解決力を発揮するためのマネジメント力を有する高度専門家を育成する。

アドミッション・ポリシー ～ このような人を求めています ～

■地域における多様な健康問題を解決するために必要な専門知識・技術・実践力を獲得し、公衆衛生の分野で研究者、教育者または高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人

■既存の枠組みにとらわれず、様々な手法を融合させて健康に関する課題を解決したいという強い意欲を持つ人

■保健医療・福祉分野に限らず、修士課程修了相当の専門知識や研究能力および語学力を有する人

修了後の主な進路

【研究・教育機関】

大学の医学/保健学/公衆衛生学系研究科、臨床研究中核病院における教育・研究職

【公的・非営利機関】

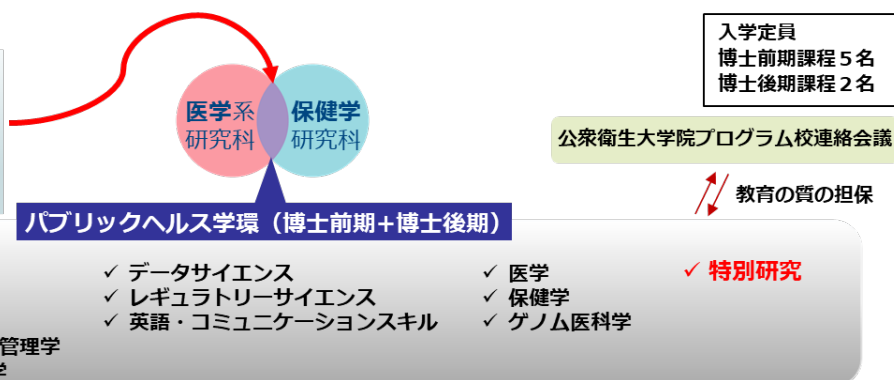
WHO、各種NGO、保健・医療政策・感染症対策・がん対策課、公益財団法人などの研究機関（例：PMDA：医薬品医療機器総合機構）などにおけるマネジメント職

【国内外の民間企業】

製薬会社・ヘルスケア産業・保険会社などにおけるコンサルティング職・マネジメント職

社会から大学院に求められるもの

- ✓ 医療分野の産学連携
- ✓ 基礎から実用化まで一貫した研究開発
- ✓ 研究成果の実用化
- ✓ 総合的な健康・医療関連産業の振興
- ✓ 我が国の医療の国際的対応能力向上
- ✓ 地域固有の医療保健対策



重粒子線医理工学プログラム

【学位】博士（医理工学） Doctor of Philosophy in
Biomedical Science and Engineering

育成する人材像 ～ このような人材を育成します ～

重粒子線医理工学を一つの軸としたレギュラトリーサイエンスを基盤とし、分野横断的連携により、独創性や創造性に富んだ研究を遂行する能力、確固たる科学的倫理的価値観に基づき協調しながら国際舞台で活躍する能力を育成し、グローバル、さらにユニバーサルに社会に貢献する医理工学にかかわる人材を育成する。

アドミッション・ポリシー ～ このような人を求めています ～

■博士前期レベルの生命医科学・理工学に関する基礎知識を身に付け、語学を含む基礎的なコミュニケーション能力を有する人

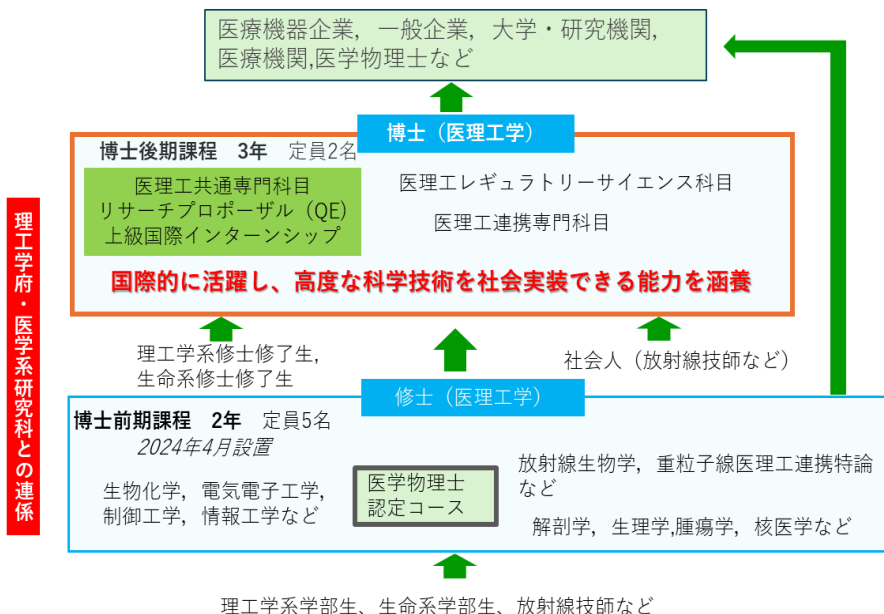
■自らの能力向上を目指し、社会において研究者・高度専門職業人として指導的役割を担おうとする強い意志とレギュラトリーサイエンスによる高い倫理観を有する人

■医理工学の研究者・高度専門職業人として、新たな科学技術の開拓に失敗を恐れずに挑戦する勇気と情熱を有する人

修了後の主な進路

大学・研究機関、医療機関、医学物理士、
産業用電気機械器具製造業（医療機器、電子応用装置）

医理工レギュラトリーサイエンス学環重粒子線医理工学プログラム（博士課程）



学生確保(資料)-6-

※【設置構想中】掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

入学料・授業料（現行）

入学金

282,000円

授業料

535,800円（年額）

※入学金・授業料の免除、奨学金、教育研究補助員雇用などの経済的支援制度があります。

設置場所・アクセス

ACCESS



荒牧キャンパス

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

バス

●JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）

□群馬大学荒牧経由渋川市内循環渋川駅行、小児医療センター行「群馬大学荒牧」下車（所要時間約28分）

□渋川駅行、渋川市内循環渋川駅行「前橋自動車教習所前」下車（所要時間約25分＋徒歩10分）

昭和キャンパス

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町3-39-22

バス

●JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）

□全線「群大病院入口」下車（所要時間約13分＋徒歩6分）

□群大病院行・群大病院経由群馬大学荒牧行、群大病院・南橋団地経由群馬大学荒牧行、群大病院経由南橋団地行「群大病院」下車（所要時間約15分）

●JR前橋駅北口3番乗り場（日本中央バス）

群馬総社駅「群大病院」下車（所要時間約15分）

ACCESS



桐生キャンパス

〒376-8515 群馬県桐生市天神町1-5-1

電車

●JR両毛線にて桐生駅下車、北方へ約2.5km

●東武桐生線にて新桐生駅下車、北方へ約4.1km

バス

●JR桐生駅北口乗り場（おりひめバス）

□旧女子高前行・上菱団地行・梅田ふるさとセンター前行「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約7分）

□菱線右回り「群馬大学桐生東門前」下車（所要時間約7分）

●東武新桐生駅乗り場（おりひめバス）

□旧女子高前・上菱団地行「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約15分）



国立大学法人
群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地

<https://www.gunma-u.ac.jp/>

群馬大学の新しい大学院に関するアンケート

群馬大学では、社会課題を解決する実践力をもつ高度な専門人材を育成するため、大学院の改革に取り組んでいます。以下の大学院については、いずれも令和6（2024）年度に「修士課程」を設置しており、令和8（2026）年度に、新たに「博士課程」を設置することを検討しています。

■ 情報学研究科 ■ パブリックヘルス学環 ■ 医理工レギュラトリーサイエンス学環

本アンケートは、学生の皆さんの進路選択に関する考え方、大学院で学びたいことなどの意見をお伺いし、群馬大学大学院の教育をより充実したものにするための参考とさせていただきます。

アンケートで得られた情報や回答内容は上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありませんので、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ 別紙資料の内容は設置構想中のものであり、名称は仮称です。
今後変更になる可能性がありますので、ご了承ください。

* 必須の質問です

（1）はじめに、あなたご自身についてお聞きします。

1。 1. あなたが所属する大学について教えてください。 *

（例）〇〇大学

2。 2. あなたが所属する学部・学科または研究科・専攻等について教えてください。 *

（例）〇〇学部〇〇学科、〇〇研究科〇〇専攻

3. 3. あなたの学年について教えてください。 *

1つだけマークしてください。

- ☐ 学部 1 年次
- ☐ 学部 2 年次
- ☐ 学部 3 年次
- ☐ 学部 4 年次
- ☐ 学部 5 年次
- ☐ 学部 6 年次
- ☐ 修士 1 年次
- ☐ 修士 2 年次
- ☐ その他: _____

4. 4. 大学（学部・研究科）卒業後の進路をどのように考えていますか。 *
（複数選択可）

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ ① 大学院に進学（博士課程 まで）
- ☐ ② 大学院に進学（修士課程 まで）
- ☐ ③ 就職
- ☐ ④ その他

4 の設問のうち、①または②を選択した方に質問です。③または④を選択した方は、5 と 6 の設問は飛ばして次に進んでください。

5. 5. 志望する大学院の設置者の希望を選択してください。 （複数選択可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 国立
- ☐ 公立
- ☐ 私立

6。 **6. 大学（学部・研究科）を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）** *

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ ① 法学・政治学関係
- ☐ ② 商学・経済学関係
- ☐ ③ 社会学関係
- ☐ ④ 数学関係
- ☐ ⑤ 物理学関係
- ☐ ⑥ 生物関係
- ☐ ⑦ 機械工学関係
- ☐ ⑧ 電気通信工学関係
- ☐ ⑨ 土木・建築工学関係
- ☐ ⑩ 応用化学関係
- ☐ ⑪ 農学関係
- ☐ ⑫ 医学関係
- ☐ ⑬ 薬学関係
- ☐ ⑭ 保健学関係
- ☐ ⑮ 食健康科学関係
- ☐ ⑯ 教育学関係
- ☐ ⑰ 自然科学関係
- ☐ ⑱ 人文・社会科学関係
- ☐ その他: _____

ここからは、リーフレットを見ながら回答してください。

（2）群馬大学において新たに設置しようとしている大学院についてお聞きます。

7。 **【情報学研究科】** *

1. 群馬大学大学院 情報学研究科（博士後期課程）が開設された場合、受験を希望しますか。次から一つ選択してください。

1つだけマークしてください。

- ☐ ① 第一志望として受験する
- ☐ ② 第二志望として受験する
- ☐ ③ 第三志望以降として受験する
- ☐ ④ 受験しない 質問9にスキップします

(1の設問で①～③を選択した方に質問です。)

8. 2. 群馬大学大学院 情報学研究科 (博士後期課程) を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次から一つ選択してください。 *

1つだけマークしてください。

- ☐ ① 入学する
- ☐ ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ☐ ③ 入学しない

9. 【パブリックヘルス学環】 *

3. 群馬大学大学院 パブリックヘルス学環 (博士後期課程) が開設された場合、受験を希望しますか。次から一つ選択してください。

1つだけマークしてください。

- ☐ ① 第一志望 として受験する
- ☐ ② 第二志望 として受験する
- ☐ ③ 第三志望以降 として受験する
- ☐ ④ 受験しない 質問 11 にスキップします

(3の設問で①～③を選択した方に質問です。)

10. 4. 群馬大学大学院 パブリックヘルス学環 (博士後期課程) を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次から一つ選択してください。 *

1つだけマークしてください。

- ☐ ① 入学する
- ☐ ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ☐ ③ 入学しない

11. 【医理エレギュラトリーサイエンス学環】

*

5. 群馬大学大学院 医理エレギュラトリーサイエンス学環（博士後期課程） が開設された場合、受験を希望しますか。次から一つ選択してください。

1つだけマークしてください。

- ☐ ① 第一志望 として受験する
- ☐ ② 第二志望 として受験する
- ☐ ③ 第三志望以降 として受験する
- ☐ ④ 受験しない 質問 13 にスキップします

（5の設問で①～③を選択した方に質問です。）

12. 6. 群馬大学大学院 医理エレギュラトリーサイエンス学環（博士後期課程） を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次から一つ選択してください。

*

1つだけマークしてください。

- ☐ ① 入学する
- ☐ ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ☐ ③ 入学しない

13. （3）大学院の教育に関してご意見・ご要望がありましたらお答えください。（自由記載）

以上でアンケートは終了です。ご協力いただきありがとうございました。

**「情報学研究科」「パブリックヘルス学環」
「医理工レギュラトリーサイエンス学環」（博士課程）
大学生・大学院生ニーズ調査 結果**

群馬大学の学部生 5,032 名、修士課程・博士前期課程の大学院生 953 名、合計 5,985 名を対象として、情報学研究科、パブリックヘルス学環及び医理工レギュラトリーサイエンス学環の博士課程に関するアンケート調査を実施した。調査時期は 2024 年 10 月であり、242 の有効回答を得た（有効回答率 4.0%）。また、群馬県内の公立大学の学部生・大学院生に対して同じアンケート調査への回答協力を依頼して、38 名から有効回答を得た。

いずれのアンケート調査も回答前に、情報学研究科、パブリックヘルス学環及び医理工レギュラトリーサイエンス学環の概要を記したリーフレットを読むように勧めている。

有効回答

群馬大学	(n=166)
共同教育学部学校教育教員養成課程	(n=11)
情報学部情報学科	(n=41)
医学部医学科	(n=20)
医学部保健学科	(n=49)
理工学部物質・環境類	(n=34)
理工学部電子・機械類	(n=11)
高崎経済大学	(n=35)
経済学部	(n=13)
地域政策学部	(n=22)
前橋工科大学	(n=3)
群馬大学大学院	(n=76)
社会情報学研究科	(n=2)
情報学研究科	(n=12)
医学系研究科	(n=14)
保健学研究科	(n=20)
理工学府	(n=22)
医理工レギュラトリーサイエンス学環	(n=4)
パブリックヘルス学環	(n=2)
合計	(n=280)

図 1 有効回答者

【 情報学研究科 】

国立の大学院進学を検討している学生のうち、
情報学研究科博士課程へ第一志望で入学を希望している者

	該当者数	構成比	該当率※	該当者内訳
群馬大学 (n=166)	3	75.0%	1.8%	
情報学部 (n=41)	3	75.0%	7.3%	学部 1 年生 2 名、学部 4 年生 1 名
群馬大学大学院 (n=76)	1	25.0%	1.3%	
情報学研究科 (n=12)	1	25.0%	8.3%	修士 1 年生 1 名
合計 (n=280)	4		1.4%	

(集計条件)

※該当率：各所属学部等の全有効回答中の該当者割合

以下を全て満たす者

- ・ 大学院進学を希望している者
- ・ 国立を志望している者
- ・ 情報学に関する分野に興味を持つ者
- ・ 第一志望として受験を希望している者
- ・ 合格時に入学を希望している者

図 2 国立の大学院進学を検討している学生のうち、
情報学研究科博士課程へ第一志望で入学を希望している者

設置区分を問わずに大学院進学を検討している学生のうち、
情報学研究科博士課程へ第一志望で入学を希望している者

	該当者数	構成比	該当率※	該当者内訳
群馬大学 (n=166)	3	42.9%	1.8%	
情報学部 (n=41)	3	42.9%	7.3%	学部 1 年生 2 名、4 年生 1 名
群馬大学大学院 (n=76)	4	57.1%	5.3%	
社会情報学研究科 (n=2)	1	14.3%	50.0%	修士 2 年生 1 名
情報学研究科 (n=12)	3	42.9%	25.0%	修士 1 年生 3 名
合計 (n=280)	7		2.5%	

(集計条件)

※該当率：各所属学部等の全有効回答中の該当者割合

以下を全て満たす者

- ・ 大学院進学を希望している者
- ・ 設置区分を問わずに志望している者
- ・ 情報学に関する分野に興味を持つ者
- ・ 第一志望として受験を希望している者
- ・ 合格時に入学を希望している者

図 3 設置区分を問わずに大学院進学を検討している学生のうち、
情報学研究科博士課程へ第一志望で入学を希望している者

国立の大学院進学を検討している学生のうち、
情報学研究科博士課程へ第一志望、第二志望又は第三志望で入学を希望している者

	該当者数	構成比	該当率※	該当者内訳
群馬大学 (n=166)	8	66.7%	4.8%	
情報学部情報学科 (n=41)	8	66.7%	19.5%	学部1年生2名、4年生6名
群馬大学大学院 (n=76)	4	33.3%	5.3%	
社会情報学研究科 (n=2)	1	8.3%	50.0%	修士2年生1名
情報学研究科 (n=12)	3	25.0%	25.0%	修士1年生3名
合計 (n=280)	12		4.3%	

(集計条件)

※該当率：各所属学部等の全有効回答中の該当者割合

以下を全て満たす者

- ・大学院進学を希望している者
- ・国立を志望している者
- ・情報学に関する分野に興味を持つ者
- ・第一志望、第二志望又は第三志望として受験を希望している者
- ・合格時に入学を希望又は志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学を希望している者

図4 国立の大学院進学を検討している学生のうち、
情報学研究科博士課程へ第一志望、第二志望又は第三志望で入学を希望している者

【パブリックヘルス学環】

国立の大学院進学を検討している学生のうち、
パブリックヘルス学環博士課程へ第一志望で入学を希望している者

	該当者数	構成比	該当率※	該当者内訳
群馬大学大学院 (n=76)	1	100.0%	1.3%	
保健学研究科 (n=20)	1	100.0%	5.0%	修士 1 年生 1 名
合計 (n=280)	1		0.4%	

(集計条件) ※該当率：各所属学部等の全有効回答中の該当者割合
以下を全て満たす者

- ・大学院進学を希望している者
- ・国立を志望している者
- ・社会健康医学又は、公衆衛生学に関する分野に興味を持つ者
- ・第一志望として受験を希望している者
- ・合格時に入学を希望している者

図 5 国立の大学院進学を検討している学生のうち、
パブリックヘルス学環博士課程へ第一志望で入学を希望している者

設置区分を問わずに大学院進学を検討している学生のうち、
パブリックヘルス学環博士課程へ第一志望で入学を希望している者

	該当者数	構成比	該当率※	該当者内訳
群馬大学 (n=166)	1	33.3%	0.6%	
医学部保健学科 (n=49)	1	33.3%	2.0%	学部 1 年生 1 名
群馬大学大学院 (n=76)	2	66.7%	2.6%	
情報学研究科 (n=12)	1	33.3%	8.3%	修士 1 年生 1 名
保健学研究科 (n=20)	1	33.3%	5.0%	修士 2 年生 1 名
合計 (n=280)	3		1.1%	

(集計条件) ※該当率：各所属学部等の全有効回答中の該当者割合
以下を全て満たす者

- ・大学院進学を希望している者
- ・設置区分を問わずに志望している者
- ・社会健康医学又は、公衆衛生学に関する分野に興味を持つ者
- ・第一志望として受験を希望している者
- ・合格時に入学を希望している者

図 6 設置区分を問わずに大学院進学を検討している学生のうち、
パブリックヘルス学環博士課程へ第一志望で入学を希望している者

国立の大学院進学を検討している学生のうち、
パブリックヘルス学環博士課程へ第一志望、第二志望又は第三志望で入学を希望している者

	該当者数	構成比	該当率※	該当者内訳
群馬大学 (n=166)	4	80.0%	2.4%	
医学部保健学科 (n=49)	3	60.0%	6.1%	学部1年生2名、2年生1名
理工学部 (n=45)	1	20.0%	2.2%	学部1年生1名
前橋工科大学 (n=3)	1	20.0%	33.3%	学部1年生1名
合計 (n=280)	5		1.8%	

(集計条件)

※該当率：各所属学部等の全有効回答中の該当者割合

以下を全て満たす者

- ・大学院進学を希望している者
- ・国立を志望している者
- ・社会健康医学又は、公衆衛生学に関する分野に興味を持つ者
- ・第一志望、第二志望又は第三志望として受験を希望している者
- ・合格時に入学を希望又は志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学を希望している者

図7 国立の大学院進学を検討している学生のうち、
パブリックヘルス学環博士課程へ第一志望、第二志望又は第三志望で入学を希望している者

【医理エレギュラトリーサイエンス学環】

国立の大学院進学を検討している学生のうち、
医理エレギュラトリーサイエンス学環博士課程へ第一志望で入学を希望している者

	該当者数	構成比	該当率※	該当者内訳
群馬大学 (n=166)	1	50.0%	0.6%	
理工学部 (n=45)	1	50.0%	2.2%	学部1年生1名
前橋工科大学 (n=3)	1	50.0%	33.3%	学部1年生1名
合計 (n=280)	2		0.7%	

(集計条件)

※該当率：各所属学部等の全有効回答中の該当者割合

以下を全て満たす者

- ・大学院進学を希望している者
- ・国立を志望している者
- ・医理工学に関する分野に興味を持つ者
- ・第一志望として受験を希望している者
- ・合格時に入学を希望している者

図8 国立の大学院進学を検討している学生のうち、
医理エレギュラトリーサイエンス学環博士課程へ第一志望で入学を希望している者

設置区分を問わずに大学院進学を検討している学生のうち、
医理エレギュラトリーサイエンス学環博士課程へ第一志望で入学を希望している者

	該当者数	構成比	該当率※	該当者内訳
群馬大学 (n=166)	2	40.0%	1.2%	
理工学部 (n=45)	2	40.0%	4.4%	学部1年生1名、3年生1名
前橋工科大学 (n=3)	1	20.0%	33.3%	学部1年生1名
群馬大学大学院 (n=76)	2	40.0%	2.6%	
保健学研究科 (n=20)	2	40.0%	10.0%	修士1年生1名、2年生1名
合計 (n=280)	5		1.8%	

(集計条件)

※該当率：各所属学部等の全有効回答中の該当者割合

以下を全て満たす者

- ・大学院進学を希望している者
- ・設置区分を問わずに志望している者
- ・医理工学に関する分野に興味を持つ者
- ・第一志望として受験を希望している者
- ・合格時に入学を希望している者

図9 設置区分を問わずに大学院進学を検討している学生のうち、
医理エレギュラトリーサイエンス学環博士課程へ第一志望で入学を希望している者

国立の大学院進学を検討している学生のうち、
医理工レギュラトリーサイエンス学環博士課程へ第一志望、第二志望又は第三志望で入学を希望している者

	該当者数	構成比	該当率※	該当者内訳
群馬大学 (n=166)	11	84.6%	6.6%	
医学部医学科 (n=20)	1	7.7%	5.0%	学部2年生1名
医学部保健学科 (n=49)	1	7.7%	2.0%	学部2年生1名
理工学部 (n=45)	9	69.2%	20.0%	学部1年生3名、2年生4名、3年生2名
前橋工科大学 (n=3)	1	7.7%	33.3%	学部1年生1名
群馬大学大学院 (n=76)	1	7.7%	1.3%	
理工学府 (n=22)	1	7.7%	4.5%	修士1年生1名
合計 (n=280)	13		4.6%	

(集計条件)

※該当率：各所属学部等の全有効回答中の該当者割合

以下を全て満たす者

- ・大学院進学を希望している者
- ・国立を志望している者
- ・医理工学に関する分野に興味を持つ者
- ・第一志望、第二志望又は第三志望として受験を希望している者
- ・合格時に入学を希望又は志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学を希望している者

図 10 国立の大学院進学を検討している学生のうち、
医理工レギュラトリーサイエンス学環博士課程へ第一志望、第二志望又は第三志望で入学を希望している者

【2026年4月 開設予定】

※ 設置構想中

掲載内容は予定であり、
変更する場合があります。

群馬大学新大学院（博士課程）

情報学研究科

パブリックヘルス学環

医理工レギュラトリーサイエンス学環

群馬大学では 新たな大学院を設置し
社会課題を解決する実践力をもつ
人材の育成を強化します

1. デジタル分野を牽引する高度専門人材の育成を強化します
2. 予測不可能な時代の到来を見据え、分野横断的な高度専門知識・能力を持つ高度専門職業人の育成を強化します

群馬大学の大学院改革（全体像）

改組前

教育学研究科

社会情報学研究科

保健学研究科

医学系研究科

理工学府

改組後

教育学研究科

情報学研究科

保健学研究科

医学系研究科

理工学府

食健康科学研究科

パブリック
ヘルス学環医理工レギュ
ラトリーサイ
エンス学環

情報学プログラム

【学位】博士（情報学） Doctor of Philosophy in Informatics

育成する人材像 ～ このような人材を育成します ～

現在の情報技術に深く依存した高度情報社会に対して、その変動の方向性を深く洞察し、これからの社会のあり方を情報技術を支える数理科学の原理もしくは社会理念にまで遡って構想し、情報社会の抱える諸問題について情報科学的な視点もしくは人文社会科学的な視点から解決に貢献できる「先端研究者」および「指導的高度専門職業人」を育成する。

アドミッション・ポリシー ～ このような人を求めています ～

■情報科学・データサイエンス・社会情報学分野について博士前期課程修了程度の理解と優れたコミュニケーション能力を持つ人

■情報科学・データサイエンス・社会情報学分野について強い探求心と主体的かつ持続的に自己研鑽する強い意欲を持っており、これらの分野において社会で指導的役割を担う気概を有する人

■情報科学・データサイエンス・社会情報学分野の動向に一定の見識があり、当該分野で取り組むべき新しい課題や科学技術の開拓の方向性を積極的に提案し、その発展に情熱的に取り組む意欲がある人、もしくは現代社会に氾濫する多種多様な情報を的確かつ選択的に把握し、それを主体的判断に基づいて加工し、新たな情報発信により情報社会に積極的に関わる意欲と情熱のある人

■柔軟な発想で情報科学・データサイエンス・社会情報学分野の課題を設定し、論理的な思考能力と的確な判断能力で課題解決に取り組める人

修了後の主な進路

大学・研究機関、情報通信業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、
電気・情報通信機械器具製造業、電子部品・デバイス・電子回路製造業、
自治体、官公庁、金融機関、運輸業、学術研究専門・技術サービス業、複合サービス業



- 学生確保(資料) -24-

※【設置構想中】掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

入学料・授業料（現行）

入学金

282,000円

授業料

535,800円（年額）

※入学金・授業料の免除、奨学金、教育研究補助員雇用などの経済的支援制度があります。

設置場所・アクセス

ACCESS



荒牧キャンパス

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

バス

●JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）

□群馬大学荒牧校由渋川市内循環渋川駅行、小児医療センター行「群馬大学荒牧」下車（所要時間約28分）

□渋川駅行、渋川市内循環渋川駅行「前橋自動車教習所前」下車（所要時間約25分+徒歩10分）

昭和キャンパス

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町3-39-22

バス

●JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）

□全線「群大病院入口」下車（所要時間約13分+徒歩6分）

□群大病院行・群大病院經由群馬大学荒牧行、群大病院・南橋団地經由群馬大学荒牧行、群大病院經由南橋団地行「群大病院」下車（所要時間約15分）

●JR前橋駅北口3番乗り場（日本中央バス）

群馬総社駅「群大病院」下車（所要時間約15分）

ACCESS



桐生キャンパス

〒376-8515 群馬県桐生市天神町1-5-1

電車

●JR両毛線にて桐生駅下車、北方へ約2.5km

●東武桐生線にて新桐生駅下車、北方へ約4.1km

バス

●JR桐生駅北口乗り場（おりひめバス）

□旧女子高前行・上菱団地行・梅田ふるさとセンター前行「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約7分）

□菱線右回り「群馬大学桐生東門前」下車（所要時間約7分）

●東武新桐生駅乗り場（おりひめバス）

□旧女子高前・上菱団地行「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約15分）



国立大学法人
群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地

<https://www.gunma-u.ac.jp/>

情報学研究科(博士課程)
大学生・大学院生ニーズ調査 結果(令和 7 年度)

群馬大学大学院情報学研究科博士課程について、学内の内部進学者のニーズを把握するため、情報学部、情報学研究科及び社会情報学研究科に所属する学生 836 名を対象としたニーズ調査を実施した。調査時期は 2025 年 6 月であり、129 の有効回答を得た(有効回答率 15.4%)。

なお、アンケート調査については、回答前に当該研究科の概要を記したリーフレットを読むように勧めている。

有効回答

群馬大学	(n=94)
情報学部情報学科	(n=94)
群馬大学大学院	(n=35)
情報学研究科	(n=34)
社会情報学研究科	(n=1)
合計	(n=129)

図1 有効回答者

国立の大学院進学を検討している学生のうち、

情報学研究科博士課程へ第一志望で入学を希望している者

	該当者数	構成比	該当率※	該当者内訳
群馬大学(n=94)	8	50.0%	8.5%	
情報学部(n=94)	8	50.0%	8.5%	学部 1 年生 1 名,学部 2 年生 1 名,学部 4 年生 6 名
群馬大学大学院(n=35)	8	50.0%	22.9%	
情報学研究科(n=34)	7	43.8%	20.6%	修士 1 年生 4 名,修士 2 年生 3 名
社会情報学研究科(n=1)	1	6.3%	100.0%	修士 2 年生 1 名
合計(n=129)	16		12.4%	

(集計条件)

※該当率:各所属学部等の全有効回答中の該当者割合

以下を全て満たすもの

- ・大学院進学を希望する者
- ・国立を志望している者
- ・情報学に関する分野に興味を持つ者
- ・第一志望として受験を希望している者
- ・合格時に入学を希望している者

図2 国立の大学院進学を検討している学生のうち、

情報学研究科博士課程へ第一志望で入学を希望している者

国立の大学院進学を検討している学生のうち、

情報学研究科博士課程へ第一志望、第二志望又は第三志望で入学を希望している者

	該当者数	構成比	該当率※	該当者内訳
群馬大学(n=94)	18	64.3%	19.1%	
情報学部(n=94)	18	64.3%	19.1%	学部1年生8名,学部2年生4名,学部4年生6名
群馬大学大学院(n=35)	10	35.7%	28.6%	
情報学研究科(n=34)	9	32.1%	26.5%	修士1年生6名,修士2年生3名
社会情報学研究科(n=1)	1	3.6%	100.0%	修士2年生1名
合計(n=129)	28		21.7%	

(集計条件)

※該当率:各所属学部等の全有効回答中の該当者割合

以下を全て満たすもの

- ・大学院進学を希望する者
- ・国立を志望している者
- ・情報学に関する分野に興味を持つ者
- ・第一志望、第二志望又は第三志望として受験を希望している者
- ・合格時に入学を希望又は志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学を希望している者

図3 国立の大学院進学を検討している学生のうち、

情報学研究科博士課程へ第一志望、第二志望又は第三志望で入学を希望している者

群馬大学の新しい大学院（博士課程・設置構想中）に関するアンケート

群馬大学では、社会の発展に寄与する優秀な人材の育成・輩出を目指して、大学院改革に取り組んでいます。「情報学研究科」では、令和6（2024）年度に「修士課程」を設置し、令和8（2026）年度に、新たに「博士課程」を設置することを検討しています。

本アンケートは、学生の皆さんの進路選択に関する考え方、大学院で学びたいことなどの意見をお伺いし、群馬大学大学院の教育をより充実したものにするための参考とさせていただきます。

アンケートで得られた情報や回答内容は上記の目的のための統計資料としてのみ活用します。

ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

* 必須の質問です

1. メールアドレス *

（1）はじめに、あなたご自身についてお聞きします。

ご所属等についてご回答ください。

2. 1. あなたが所属する大学について教えてください。 *

（例）〇〇大学

3. 2. あなたが所属する学部・学科または研究科・専攻等について教えてください。 *

（例）〇〇学部〇〇学科、〇〇研究科〇〇専攻

4. 3. あなたの学年について教えてください。 *

1つだけマークしてください。

- ☐ ① 学部1年生
- ☐ ② 学部2年生
- ☐ ③ 学部3年生
- ☐ ⑤ 学部4年生
- ☐ ⑦ 修士1年生
- ☐ ⑧ 修士2年生

5. 4. 大学（学部・研究科）卒業後の進路をどのように考えていますか。（複数選択可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ ① 大学院に進学（博士課程まで）
- ☐ ② 大学院に進学（修士課程まで）
- ☐ ③ 就職
- ☐ ④ その他

（4の設問のうち、①または②を選択した方に質問です。③または④を選択した方は、5と6の設問は飛ばして次に進んでください。）

6. 5. 志望する大学院の設置者の希望を選択してください。（複数選択可）

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ ① 国立
- ☐ ② 公立
- ☐ ③ 私立

7. 6. 学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ ① 法学・政治学関係
- ☐ ② 商学・経済学関係
- ☐ ③ 社会学関係
- ☐ ④ 数学関係
- ☐ ⑤ 物理学関係
- ☐ ⑥ 生物関係
- ☐ ⑦ 機械工学関係
- ☐ ⑧ 電気通信工学関係
- ☐ ⑨ 土木・建築工学関係
- ☐ ⑩ 応用化学関係
- ☐ ⑪ 農学関係
- ☐ ⑫ 医学関係
- ☐ ⑬ 薬学関係
- ☐ ⑭ 保健学関係
- ☐ ⑮ 食健康科学関係
- ☐ ⑯ 教育学関係
- ☐ ⑰ 自然科学関係
- ☐ ⑱ 人文・社会科学関係
- ☐ その他: _____

ここからは、リーフレットを見ながら回答してください。

こちらのリンクからご確認いただけます。

<https://drive.google.com/file/d/18fBtr5kTlgGyU8PJvRkcxT2BFaPCxFCq/view?usp=sharing>

- (2) 群馬大学において新たに設置しようとしている大学院についてお聞きします。

8. 1. 群馬大学大学院情報学研究科 （博士後期課程） が開設された場合、受験 ^{*}を希望しますか。次より一つ選択してください。

1つだけマークしてください。

- ☐ ① 第一志望として受験する
- ☐ ② 第二志望として受験する
- ☐ ③ 第三志望以降として受験する
- ☐ ④ 受験しない 質問 10 にスキップします

（1 の設問で①～③を選択した方に質問です。）

9. 2. 群馬大学大学院情報学研究科 （博士後期課程） を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より一つ選択してください。 ^{*}

1つだけマークしてください。

- ☐ ① 入学する
- ☐ ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ☐ ③ 入学しない

10. （3）大学院の教育に関してご意見・ご要望がありましたらお答えください。
（自由記載）

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

群馬大学の新しい大学院に関するアンケート

群馬大学では、社会課題を解決する実践力をもつ人材を育成するため、以下の新しい大学院を設置することを検討しています。

- ・情報学研究科
- ・食健康科学研究科
- ・パブリックヘルス学環
- ・医理工レギュラトリーサイエンス学環

本アンケートは、企業・団体の皆さんの採用に関する考え方、大学院における従業員の学び直しなどの意見をお伺いし、群馬大学大学院の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、企業・団体を特定することは一切ありませんので、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※別紙資料の内容は設置構想中のものであり、名称は仮称です。今後変更になる可能性がありますのでご了承ください。



(共有なし) [アカウントを切り替える](#)



*必須

(1) はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

① アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度を教えてください。 *

- ☐ 採用の決定権があり、選考にかかわっている
- ☐ 採用の決定権はないが、選考にかかわっている
- ☐ 採用時に直接かわらず、情報や意見を収集、提供する



② 貴社・貴団体の本社（本部）所在地について、都道府県名を教えてください。 *

回答を入力

③ 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。 *

- ☐ 農・林・漁・鉱業
- ☐ 建設業
- ☐ 製造業
- ☐ 電気・ガス・熱供給・水道業
- ☐ 情報通信業
- ☐ 運輸業
- ☐ 卸売・小売業
- ☐ 金融・保険業
- ☐ 不動産業
- ☐ 飲食店・宿泊業
- ☐ 医療・福祉
- ☐ 複合サービス事業
- ☐ サービス業
- ☐ 公務
- ☐ その他



④ 貴社・貴団体の従業員数（正規社員）について、ご回答ください。 *

- ☐ 50名未満
- ☐ 50名～100名未満
- ☐ 100名～500名未満
- ☐ 500名～1,000名未満
- ☐ 1,000名～5,000名未満
- ☐ 5,000名以上

⑤ 貴社・貴団体の過去（例えば3か年）の平均的な正規社員の採用数について、教えてください。（分かる範囲で結構です。）

回答を入力

⑥ ⑤のうち、大学院修了者数を教えてください。（分かる範囲で結構です。）

回答を入力

⑦ 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。 *

- ☐ 増やす
- ☐ 昨年度並み
- ☐ 減らす
- ☐ 未定
- ☐ 採用予定なし
- ☐ 見送り（中止）



⑧ 貴社・貴団体では、大学院修了生を採用した実績がある場合又は採用を予定 *
している場合、学部卒業生と比較し大学院修了生の専門的知識・能力の高さの違
いを期待していますか。

- ☐ とても期待している
- ☐ ある程度期待している
- ☐ あまり期待していない
- ☐ まったく期待していない
- ☐ 大学院修了生の採用は予定していない

1/2 ページ

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 群馬大学 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム



群馬大学の新しい大学院に関するアンケート



(共有なし) [アカウントを切り替える](#)



*必須

ここからは、リーフレットをみながら回答してください。

※リーフレットは以下のURLからアクセスできます。

https://drive.google.com/file/d/12pn7GHw3l21mWFyz4JBLud9ZYy78lH2L/view?usp=share_link

(2) 群馬大学において新たに設置しようとしている大学院についてお伺いいたします。

⑨ 各研究科の強み・特色のある分野を融合させた新たな研究科・学環を設置することについてどのような印象をお持ちになりましたか。 *

- ☐ とても評価できる
- ☐ ある程度評価できる
- ☐ あまり評価できない
- ☐ まったく評価できない



⑩ 貴社・貴団体では、新たな研究科・学環を修了した学生について、採用 ^{*}したいと思われませんか。

	採用したいと思う	どちらかと言えば採用したいと思う	どちらかと言えば採用したいとは思わない	採用したいとは思わない
情報学研究科 社会情報学プログラム	☐	☐	☐	☐
情報学研究科 情報科学プログラム	☐	☐	☐	☐
食健康科学研究科 食健康科学プログラム	☐	☐	☐	☐
パブリックヘルス学環 社会健康医学プログラム	☐	☐	☐	☐
医理工レギュラトリーサイエンス学環 重粒子線医理工学プログラム	☐	☐	☐	☐



⑪ 貴社・貴団体の社員・職員の学び直しの方として、新たな研究科・学環は候補になると思われますか。 *

	候補になると思 う	どちらかと言え ば候補になると 思う	どちらかと言え ば候補になると 思わない	候補になると思 わない
情報学研究科 社会情報学プロ グラム	☐	☐	☐	☐
情報学研究科 情報科学プログ ラム	☐	☐	☐	☐
食健康科学研究 科 食健康科学 プログラム	☐	☐	☐	☐
パブリックヘル ス学環 社会健 康医学プログラ ム	☐	☐	☐	☐
医理工レギュラ トリーサイエン ス学環 重粒子 線医理工学プロ グラム	☐	☐	☐	☐

⑫ 大学院の教育に関してご意見・ご要望がありましたらお答えください。（自由記載）

回答を入力

2/2 ページ

戻る

送信

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 群馬大学 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム



「情報学研究科」「食健康科学研究科」
「パブリックヘルス学環」「医理工レギュラトリーサイエンス学環」
就職先企業ニーズ調査結果

(出口のニーズ調査)

群馬大学大学院修了生の就職先(平成 27 年度～令和 2 年度) 961 社、群馬経済同友会会員企業 267 社、前橋商工会議所会員企業 114 社、合計 1,342 社を対象として、「情報学研究科」「食健康科学研究科」「パブリックヘルス学環」「医理工レギュラトリーサイエンス学環」に関するアンケート調査を実施した。調査時期は 2023 年 1 月であり、153 の有効回答を得た(有効回答率は 11.4%である)。

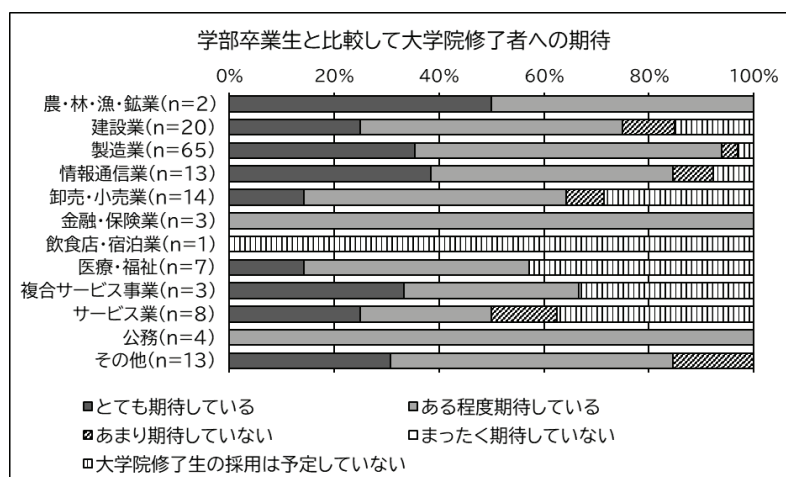


図 1.1 大学院修了生を採用した実績がある場合または採用を予定している場合における学部卒業生と比較して大学院修了生の専門的知識・能力の高さを期待する程度(%)

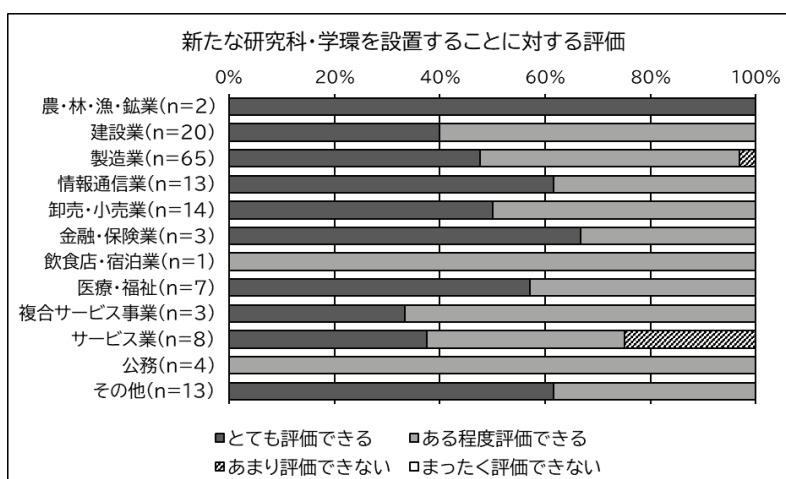


図 2 各研究科の強み・特色のある分野を融合させた新たな研究科・学環を設置することについての評価の程度(%)

図 1 は大学院修了生を採用した実績がある場合または採用を予定している場合における学部卒業生と比較して大学院修了生の専門的知識・能力の高さを期待する程度について、4 件法(「まったく期待していない」「あまり期待していない」「ある程度期待している」「とても期待している」)による回答(別途「大学院修了生の採用を予定しない」という選択肢がある)を回答企業の業種ごとに示したものである。回答者数が 1 社のみであった飲食店・宿泊業を除いて、どの業種においても「ある程度期待している」と「とても期待している」の合計は 5 割以上である。図 2 は各研究科の強み・特色のある分野を融合させた新たな研究科・学環を設置することについての評価の程度を回答企業の業種ごとに示したものである。「ある程度評価できる」と「とても評価できる」の合計はどの業種でも 7 割以上である。概ね大学院生の就職先企業からは高く評価されていると解釈できる。

表 2.1 新たな研究科・学環を修了した学生について「どちらかと言えば採用したい」と「採用したい」の合計(%)

	情報学研究 科社会情報 学プログラム	情報学研究 科情報科学 プログラム	食健康科学 研究科食健 康科学プロ グラム	パブリックハ ルス学環社 会健康医学 プログラム	医理工レギュ ラトリサイ エンス学環重 粒子線医理 工学プログ ラム
農・林・漁・鉱業 (n=2)	100.0	100.0	50.0	100.0	100.0
建設業 (n=20)	70.0	70.0	40.0	25.0	25.0
製造業 (n=65)	73.8	84.6	55.4	50.8	60.0
情報通信業 (n=13)	100.0	100.0	69.2	61.5	69.2
卸売・小売業 (n=14)	85.7	85.7	64.3	64.3	57.1
金融・保険業 (n=3)	100.0	100.0	66.7	66.7	66.7
飲食店・宿泊業 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医療・福祉 (n=7)	42.9	42.9	42.9	42.9	42.9
複合サービス事業 (n=3)	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7
サービス業 (n=8)	75.0	75.0	50.0	50.0	25.0
公務 (n=4)	100.0	100.0	75.0	75.0	50.0
その他 (n=13)	92.3	92.3	53.8	46.2	53.8

表 2.1 は新たな研究科・学環を修了した大学院生の採用に関する 4 件法(「採用したいとは思わない」「どちらかといえば採用したいとは思わない」「どちらかといえば採用したい」「採用したい」)による回答について、「どちらかといえば採用したい」と「採用したい」の合計を回答企業の業種ごとに示したものである。50.0%以上のマスを白抜き文字に、30.0%以上 50.0%未満のマス目の背景色をグレーにしている。どの研究科・学環においても、多くの業種で 50%以上の企業が肯定的な回答をしている。とりわけ、情報学研究科社会情報学プログラムと情報学研究科情報科学プログラムでは農・林・漁・鉱業、情報通信業、公務で 100.0%となっていて、また、回答者数が最も多く群馬県内の有力な業種である製造業(n=65)では、すべての研究科・学環が過半数となっていて、新たな研究科・学環に対する期待の高さが窺われる。これらの研究科・学環の修了生は各企業の即戦力として認められることが想定される。

表 2.2 新たな研究科・学環が従業員の学び直しの場の候補になるかどうかについて「どちらかと言えば候補になると思う」と「候補になる」の合計(%)

	情報学研究 科社会情報 学プログラム	情報学研究 科情報科学 プログラム	食健康科学 研究科食健 康科学プロ グラム	パブリックヘルス学環社 会健康医学 プログラム	医理工レギュ ラトリーサイ エンス学環重 粒子線医理 工学プログラ ム
農・林・漁・鉱業 (n=2)	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0
建設業 (n=20)	50.0	50.0	25.0	15.0	15.0
製造業 (n=65)	67.7	75.4	35.4	36.9	49.2
情報通信業 (n=13)	84.6	84.6	23.1	23.1	38.5
卸売・小売業 (n=14)	78.6	78.6	50.0	50.0	28.6
金融・保険業 (n=3)	100.0	100.0	66.7	66.7	66.7
飲食店・宿泊業 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医療・福祉 (n=7)	42.9	57.1	42.9	42.9	42.9
複合サービス事業 (n=3)	100.0	100.0	66.7	66.7	33.3
サービス業 (n=8)	62.5	62.5	50.0	37.5	25.0
公務 (n=4)	75.0	75.0	75.0	75.0	50.0
その他 (n=13)	92.3	92.3	61.5	53.8	53.8

表 2.2 は新たな研究科・学環が従業員の学び直しの場の候補になるかどうかに関する 4 件法（「候補になるとは思わない」「どちらかと言えば候補になるとは思わない」「どちらかと言えば候補になる」「候補になる」）による回答について、「どちらかといえば候補になる」と「候補になる」の合計を回答企業の業種ごとに示したものである。50.0%以上のマス目を白抜き文字に、30.0%以上 50.0%未満のマス目の背景色をグレーにしている。情報学研究科社会情報学プログラムと情報学研究科情報科学プログラムでは、ほとんどの業種で過半数の企業が肯定的な回答をしている。食健康科学研究科食健康医学プログラムとパブリックヘルス学環社会健康医学プログラムでは、農・林・漁・鉱業、卸売・小売業、金融・保険業、複合サービス業、公務、その他で、医理工レギュラトリーサイエンス学環重粒子線医理工学プログラムでは金融・保険業、公務、その他で過半数の企業が肯定的な回答をしている。すべての研究科・学環において従業員を対象とするリカレント教育が期待されていると考えられる。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：大学院情報学研究科 修士課程の 入学説明会

	R 5 年度入試	R 6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)		59人	①取組概要 受験希望者を対象として、情報学研究科の特色や養成する人材像の紹介、プログラム別の教員と研究内容の紹介、在学生の生活(社会人と学生の両立)、入試概要と修学支援制度等について説明した。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 入学説明会参加者のうち受験対象者の8割以上は入学に繋がっているため、説明会の効果は高い。
うち受験対象者数 (b)		59人	
うち受験者数 (c)		50人	
うち入学者数 (d)		47人	
(受験率 c/b)	#DIV/0!	84.7%	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	79.7%	

国立大学法人群馬大学長

石 崎 泰 樹 様

群 馬 県 知 事

山 本 一 太



情報学研究科博士後期課程設置に関する要望書

貴学におかれましては、本県に立地する国立大学として、地域の総合知の拠点、地域の教育、医療を担う中核となり、活力ある地域社会の創造、産業の発展、医療福祉の向上に寄与されるとともに、豊かな人間性と高度な専門知識を兼ね備えた優れた人材を育成されていることに対して、心より敬意と感謝を表します。

さて、本県では、近年、デジタル・クリエイティブ産業の創出に注力し、「デジタル産業」と「クリエイティブ産業」を掛け合わせ、その技術やアイデア等を融合させた新たな産業による地域活性化を目指しております。Society 5.0 時代において、真に地域課題を解決し持続可能な社会を実現するには、情報科学の専門知識に加え、人文科学や社会科学の素養も併せ持つ、文理融合型の高度人材が不可欠です。特に、独創的な研究開発能力と課題解決能力を備えた博士人材は、デジタル・クリエイティブ産業を支えるだけでなく、新たな社会構築を実現するためのリーダーとして本県の発展に欠かせない存在です。

近年の技術革新のスピードは加速しており、既存の知識や技術の応用だけでは、複雑化する地域課題に対応できません。博士人材は、高度な専門知識と研究能力を駆使し、新たな知見や革新的な技術を生み出すことで、本県が直面する課題の解決にブレークスルーをもたらすことが期待されます。

本県の代表的な産業である製造業や農畜産業の DX、高齢化社会における医療・介護の効率化、再生可能エネルギーを活用した持続可能な地域づくり、災害に強い地域づくりなど、博士人材の活躍が期待される分野は多岐にわたります。情報科学技術を社会実装していく上では、倫理的側面への配慮、社会への影響評価、法制度整備など、人文・社会的な視点が不可欠です。本県が目指す「年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、全ての県民が、誰一人取り残されことなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型の社会」の実現のためには、技術革新と社会受容性のバランスを保ちながら、持続可能な発展を追求していく必要があります。その点においても、情報・人文・社会科学の素養を併せ持つ博士人材の育成は極めて重要です。

また、博士人材は、次世代を担う人材育成にも重要な役割を担います。大学や研究機関における教育活動を通じて、高度な専門知識や研究スキルを学生に伝授することで、将来の地域社会を支える人材育成に貢献します。さらに、企業との共同研究や地域連携活動を通じて、地域社会の活性化にも大きく貢献することが期待されます。

つきましては、先に設置された情報学部及び情報学研究科修士課程における情報系人材の育成に取り組まれている貴学において、より高度な人文科学や社会科学の素養も併せ持つ情報系人材を育成するための新たな博士後期課程の設置が早期に実現し、これまで以上に、本県並びに我が国に貢献する大学となるよう、特段の御配慮を賜りますよう、要望いたします。

令和7年6月25日

国立大学法人群馬大学長

石 崎 泰 樹 様

株式会社群馬銀行

代表取締役頭取 深 井 彰 彦



情報学研究科博士後期課程設置に関する要望書

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当行は、地方銀行として地域の発展に貢献するため、様々な取り組みを行っております。特に、近年はデジタル化の進展に伴い、金融業界においても高度な情報科学の知識とスキルを持つ人材の確保が急務となっています。

これまで、当行は貴大学の情報学研究科修士課程設置に伴い、社会人学生として当行の行員を派遣し、高度な専門知識と実践力の習得を支援して参りました。文系出身者が多い当行では、高度な情報科学スキルと人文・社会科学分野から習得できる俯瞰的視野を兼ね備えた人材を求めており、共同研究を通してこれらを習得した社会人学生には、当行の未来を担う先導役として大いに期待しております。

急速に変化する社会情勢や顧客ニーズに対応するためには、高度な情報科学の専門知識だけでなく、人文・社会科学の素養を兼ね備えた人材は不可欠です。倫理観に基づいたAIの活用、多様な顧客ニーズに合わせた金融サービスの提供、地域社会の持続可能な発展への貢献など、金融業界が抱える課題は複雑化しており、情報科学の知識のみでは解決できません。人文・社会科学の素養を持つ博士人材は、広い視野と深い洞察力を持ってこれらの課題に取り組み、新たな価値を創造することが期待されます。例えば、行動経済学の知見を金融商品開発に活かす、社会学の視点から地域金融の課題を分析するなど、文理融合型の研究は大きな可能性を秘めています。

つきましては、貴大学におかれまして情報学研究科博士後期課程の設置をする際に、人文科学・社会科学分野と情報科学分野との融合を重視した、文理融合型の教育研究を行う人材育成をご検討いただきたく、ここに要望いたします。当行としては、これまで以上に貴大学との連携を強化し、社会人学生の派遣、共同研究プロジェクトへの参画など、博士人材育成に積極的に貢献していく所存です。貴大学のご英断と積極的な取り組みを切望いたします。

敬具

令和 7 年 6 月 9 日

国立大学法人群馬大学長

石 崎 泰 樹 様

株式会社 SUBARU 群馬製作所長

常務執行役員 福水良太



群馬大学情報学研究科における博士人材育成への期待と要望

拝啓 皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

株式会社 SUBARU は、群馬県を主要な生産拠点とする自動車メーカーとして、地域社会の発展に貢献すべく事業活動を展開しております。近年、自動車産業は 100 年に一度と言われる大変革期を迎えており、CASE (Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric) に代表される技術革新が急速に進展しています。このような状況下において、SUBARU が持続的な成長を遂げるためには、高度な情報科学技術を駆使し新たなモビリティ社会を創造していくことが不可欠です。

特に、自動運転、コネクテッドカー、電動化技術など、情報科学を基盤とした技術開発は、今後の SUBARU の競争力を左右する重要な要素です。これらの技術開発を推進し、次世代モビリティ社会をリードしていくためには、高度な専門知識と研究能力を備えた博士人材の確保が急務となっています。

技術革新が加速する現代社会においては、単に高度な技術力を持つだけでなく、社会科学や人文科学の知見を併せ持つ人材がますます重要になっています。自動運転技術における倫理的な意思決定、コネクテッドカーにおける個人情報保護、MaaS (Mobility as a Service) における社会受容性、さらには持続可能な社会の実現に向けた環境問題への配慮など、技術開発は常に社会との調和を図りながら進められることが望まれます。

つきましては、貴大学におかれましては、情報科学分野を基盤としつつ、人文・社会科学分野との融合による文理融合型の教育研究を行うことを重視の上、情報学研究科博士課程後期課程の設置をご検討いただきたく、ここに要望いたします。倫理、法学、社会学、経済学といった人文・社会科学系の知見を情報科学と融合させることで、真に社会に貢献できる博士人材の育成が可能となります。

SUBARU は、貴大学との連携を強化し、共同研究、インターンシップの受け入れ、博士人材育成に積極的に貢献していく所存です。博士人材育成における貴大学の積極的な取組みに期待いたします。

敬具

令和7年6月17日

国立大学法人群馬大学長
石 崎 泰 樹 様

日本電信電話株式会社
社会情報研究所
所長 中 嶋 良 彰



群馬大学情報学研究科における博士人材育成への期待と要望

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日本電信電話株式会社(以下 NTT)は、光の技術を軸とした次世代情報通信基盤をもとに、よりスマートに一人ひとりが自分らしく生きられる Well-being な世界の実現をめざす IOWN 構想のように、情報通信技術によって社会に発展をもたらす取り組みを推進しています。

このような取り組みの一環として、私ども社会情報研究所においても、「社会」と「情報通信技術」の関係性に焦点を当て、IOWN 等の新たな情報通信技術の人々にとって役立ち、そして不利益をもたらさないものとするべく、『人々の視点から社会の発展を支える情報通信技術の研究開発』に取り組んでいます。この研究開発では、情報科学に加えて、人文・社会科学、法制度等も含む総合的なアプローチが不可欠です。しかしながら、その実行には分野横断の広い知見と高い研究能力を兼ね備えた優れた人材が必要であり、その育成は極めて重要な課題と言えます。

つきましては、貴大学におかれましても、情報科学分野を基盤としつつ、人文・社会科学分野との融合による文理融合型の教育研究を行うことの重要性に着目し、情報学研究科博士後期課程の設置をご検討いただきたく、ここに要望いたします。倫理、法学、社会学、経済学、経営学といった人文・社会科学系の知見を情報科学と融合させた教育システムは、真に社会に貢献できる博士人材の着実な育成につながるものと期待しております。

NTT としても、共同研究、インターンシップの受け入れなどを通じて、そのような博士人材の育成の取り組みに貢献すべく、貴大学との連携を引き続き強化していく所存です。博士人材育成に関する貴大学の積極的な取組みに期待いたします。

敬具

令和7年6月11日

国立大学法人群馬大学長
石 崎 泰 樹 様

LINE ヤフー株式会社
代表取締役 出澤 剛



群馬大学情報学研究科における博士人材育成への期待と要望

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

LINE ヤフー株式会社(以下、LINE ヤフー)は、ICT を基盤とした多様なサービスを通じて、社会のデジタル化を支える事業を展開しております。

AI やデータサイエンス、情報セキュリティ、プライバシー保護、次世代通信 (Beyond 5G/6G) といった技術の進展は、私たちのサービスや社会に大きな影響を与えており、これらをリードできる高度な研究人材の育成が急務です。特に、技術の社会的影響や倫理・法制度との関係も理解した、文理融合型の博士人材の重要性が高まっています。

つきましては、貴大学におかれまして、情報科学を軸に人文・社会科学と連携した博士後期課程の設置をご検討いただきたくお願い申し上げます。

LINE ヤフーは、共同研究やインターンシップ等を通じて、博士人材育成に引き続き貢献してまいります。今後の貴大学のご発展とご活躍を心より期待しております。

敬具

